いもち病（葉いもち）情報第１号

平成２３年６月１６日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

東海地方は５月27日ごろ梅雨入りしました（平年６月８日ごろ、昨年６月13日ごろ）。６月上旬は曇りの日が多く、平均気温は低く、降水量は平年並になりました。

気象予報によれば、向こう１か月は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されているので、病気の発生に注意が必要です。

５月27日から６月15日までのＢＬＡＳＴＡＭ（裏面参照）による葉いもち感染好適日の推定結果（下表）によれば、感染好適日（●印）はまだありませんが、５月27～29日と６月１～２日に、広域で準好適条件（①②③④印）となりました。

水分や温度等の条件が整うと罹病稲わら等でいもち病菌の胞子が形成され、風雨で飛散します。いもち病菌の胞子がイネ葉上に付着すれば、感染好適条件が満たされた日から７日間前後で病斑が形成され、10日から２週間で目立つようになります。本田を見回り、初発生を確認したら、適切に防除しましょう。

なお、補植用苗はいもち病の伝染源となりますので、早めに除去しましょう。

ＢＬＡＳＴＡＭによる葉いもち感染好適日の推定結果　　５月27日～６月15日

日付	尾張				西三河		東三河			中山間		備考
	愛西	南知多	東海	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	伊良湖	豊橋	新城	稲武	
5/27	6	8	①	－	①	④	④	?	－	④	③	
5/28	①	①	①	①	①	①	①	④	9	④	①	
5/29	①	7	8	①	①	①	7	7	①	①	④	
5/30	－	5	7	2	6	3	3	－	2	3	1	
5/31	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
6/01	④	－	④	9	－	5	－	－	－	③	9	
6/02	6	－	④	④	④	5	3	－	－	③	③	
6/03	－	－	－	－	－	－	－	8	7	6	－	
6/04	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
6/05	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
6/06	－	－	－	－	8	－	－	－	7	－	－	
6/07	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
6/08	－	3	3	－	－	2	3	3	3	3	－	
6/09	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
6/10	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
6/11	5	6	5	3	6	4	3	5	6	4	4	
6/12	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
6/13	5	5	7	6	7	5	7	4	6	4	6	
6/14	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
6/15	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	

●　：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、いもち病発生の好適条件が現れた）
④　：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が比較的低く、その平均気温に必要な湿潤時間より短い）
③　：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃の範囲外）
②　：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前５日間の平均気温が25℃以上）
①　：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前５日間の平均気温が20℃未満）
数値：湿潤時間が10時間未満である湿潤時間数
－　：好適条件なし（いもち病発生の好適条件が現れなかった）
？　：判定不能

ＢＬＡＳＴＡＭについて

ＢＬＡＳＴＡＭ（イネいもち病発生予察用シミュレーションプログラム）は、県下11か所に設置してあるアメダス観測地点における、気温及び降水量等から葉いもちの感染好適条件を推定するシステムで、下図の流れで感染好適条件を判断しています。

１　ＢＬＡＳＴＡＭによる葉いもち感染好適日の推定結果の見方

この表で●印のついている日は、いもち病の感染に好適な条件が現れ感染の可能性が高いことを示しています。①、②、③、④印はいもち病の感染に気温条件がやや不適であるが、感染の可能性が比較的高い日であることを示しています。印のついていない日は感染の可能性が低いか、全くない日であることを示しています。

このような印が同じ日に県下の多数の地点、あるいは地域にまとまってつくと、県下全域、あるいはその地域で、広範囲にいもち病の感染が起こる可能性が高い日であったと判定されます。

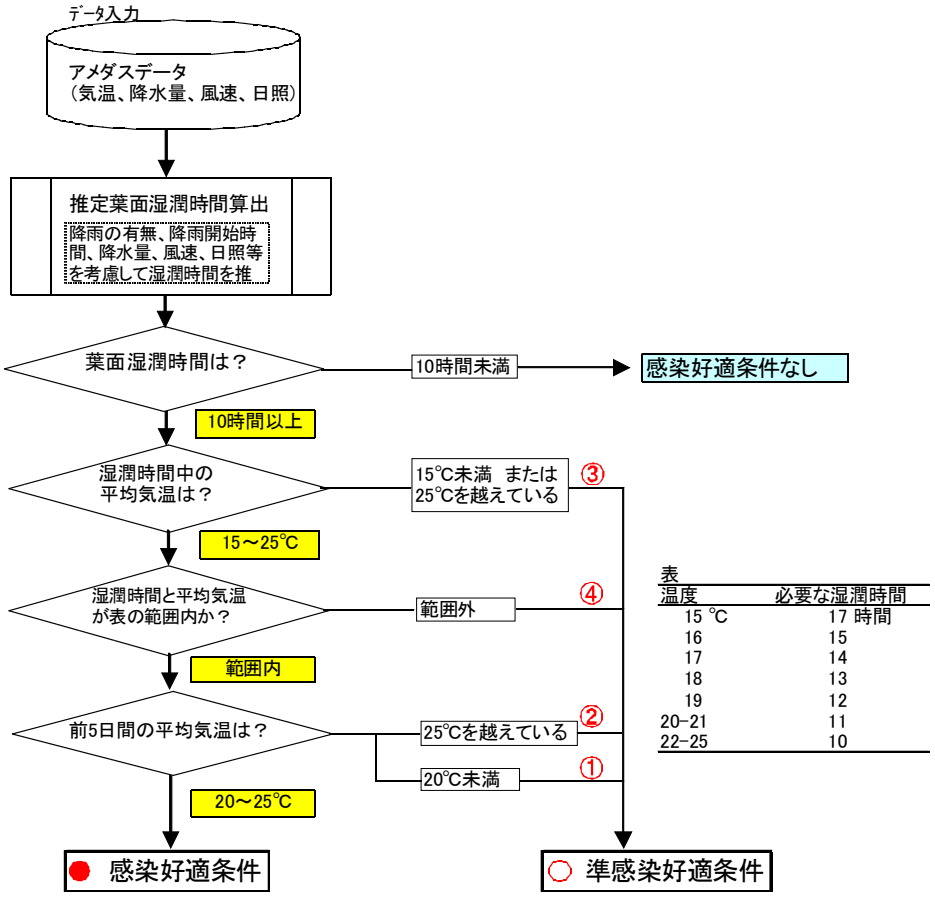
２　感染好適条件と発病

感染好適条件が現れた（●、①、②、③、④印が現れる）日から７日間前後で初発生が予想されます。初発生後極端な低温か高温がない限り、感染好適条件が現れた日から２週間前後で病斑が目立つようになります。その前後に次の感染好適条件が現れると２次感染が起こり、葉いもちが蔓延し始めます。

いもち病の感染に好適な条件が現れ、感染が起こってもイネの品種、肥培管理、防除等によっては発病に至らない場合もあります。

また、発生量についてもほ場内の進行型病斑の割合、イネの品種、肥培管理、防除と気象条件に左右されるので、感染に好適な条件が頻繁に現れても、必ずしもその地域のすべてのほ場でいもち病が蔓延するとは限りません。

したがって、この情報を参考にしながら、発病を認めたら速やかに防除を徹底することが大切です。



BLASTAMによるいもち病（葉いもち）感染好適日推定の流れ